

エッセイ

立川と語ろう 立川に生きよう

August 2024

Écoutez Bien Vol.41 No.473

8

日本の交通を考える

表紙／真夏のサンサンロードを見る(曙町)



立川を食べよう!

eat in Tachikawa

他の写真はこちらから



ヤマス蔵カフェ

ディープな立川を感じながら

「蔵」の響きがオシャレです。
引き戸を開けて中に入ると、
昭和の立川を想起させるアイテムがいっぱい。
その中でいただく手作りランチは、お腹も心も満たしてくれます。

ご実家の蔵を改装してカフェに。
若い人には新しく、昔の人には懐かしい品々に囲まれて、
キッシュのパイ生地も、ドリアのベシャメルソースも中身のご飯も、
もちろんケーキだって、かき氷のシロップだって、全部手作り。
1つひとつに、オーナーの気持ちがこもっています。
まさにすべてが手作りの、立川ランチを召し上がれ。



ドライカレーのドリアプレート ドライカレー
に入っているレーズンが美味しさを倍増させる
アクセント 他にチキンライスドリアもあります



その日によってケーキは変わります
チーズケーキとホットホワイトカフェモカ



キッシュプレート バリバリのパイ生地から手作りです



夏ですね〜 クリームソーダ



シロップも手作り これは王道
のいちご 他にもいろいろあり
ます



こちらも手作り
生チョコケーキとアイスカフェモカ

ヤマス蔵カフェ

立川市富士見町5-8-14

営業時間 11:00~17:00
(L.O 16:30)

定休日 土、日、祝、第4月曜
他臨時休業あり

『交通崩壊』——第49回交通図書賞受賞

鉄道網・道路・歩道……ツギハギ行政はもう限界! STOP交通カオス

2024年3月27日、2023年度(第49回)「交通図書賞」の表彰式が、東京・丸の内日本交通協会大会議室で行われた。受賞作『交通崩壊』(新潮社・新潮新書)の著者は、都市・交通ジャーナリストで、一般社団法人立飛総合研究所理事の市川嘉一氏。著書について、お話をうかがった。

——立飛総合研究所は「立飛」とついていますが、立飛グループの一員ですか。

市川 広い意味では一員ですが、調査したりレポート出したりしますから、一般社団法人として中立的な立場にあります。

——今回「交通図書賞」を受賞された『交通崩壊』ですが、とても読み易かったです。

市川 それはよかったです。受賞理由は「日本の公共交通が抱える諸課題を的確に指摘し、その解決に向けた政策の方向性や具体的な対策を明らかにした示唆に富む作品」というものですが、分かりやすくまとめていることも高い評価を頂いた部分でした。以前、専門書も書いたのですが、発行部数は3000部程度でしたので読者は限られます。今回は多くの方にも読んでもらいたかったので、大手レーベルから新書を出しました。

——今回はタイムリーでしたね。

市川 4年前に交通関係の月刊雑誌で連載を頼まれて、その時に本にすることを視野に入れて連載記事を書き始めました。

——おっしゃりたいことがはっきりしていてわかりやすかったです。読み終わって、「まちづくり」の大前提に交通があって、それがなかったらまちの活性化なんて存在しないということがよくわかりました。

市川 ああ、よかったです。要するに「移動」なんです。

——そう、最初に岡並木さんの言葉を引用されていましたね。『人間にしろ、モノにしろ、どこかのドアから出てどこかのドアに入るまでの全行程が私たちにとっての交通である』と。

市川 そうです。日本の言葉のイメージだと、どうしても「交通」イコール「乗り物」になっ

てしまいがちですが、人間の行動の最初はすべて「移動」なんです。働く、学ぶ、遊ぶ…すべて、移動がなければ始まらない。

——ええ、続けて岡さんは『そして私たちは、その全行程ができるだけ連続的に、できるだけ安い対価で移動できる道を選択しようとしている。その必要から生まれた道具が道路であり、乗り物であり、輸送機器である』と。

市川 そうです。40年以上前に出た本ですが、そこでの指摘は今なお新鮮です。

——でも、その「移動」が、鉄道の廃線などで手段を取り上げられるわけです。

市川 だから、日本の公共交通のあり方が世界の潮流とかけ離れていることを、一般の市民に気づいてもらいたかったんです。赤字だから廃止しても仕方ないというのは、あまりにも短絡的な考え方です。ヨーロッパなどでは、公共交通は採算主義ではなく、文字通り公共サービスです。だからこそ、より利用客に魅力的な乗り物にしようと、もっとも運行頻度を上げるなどサービスを良くしようとする。日本の場合は事業者の大半が民間であることもあり、なんとか赤字を減らすために、運行頻度を下げる。そんなことではますます人は乗らないでしょ。採算事業ではなく、言葉を換えれば、「目先ばかりを見ずに遠くを見る」ということです。それが将来的に利用客の増大など事業者にもプラスに跳ね返ってくることになるんです。

——でも、赤字路線で、空気を運んでると言われてしまいうる。

市川 人間の行動はひとつの流れになってしまうと、それに慣れてしまう。とりわけ、日本の場合はほとんどそう。運行頻度が一日数本になるともう乗らなくなってしまうんです。

よ。だからますます空になっちゃう。それが「需要追従型のサービス供給」と言われているもので、これに対し、ヨーロッパは「需要開拓型のサービス供給」、つまりサービスを向上させながら潜在需要を掘り起こしていく公共交通なんです。よく行動変容と言われますが、人々の行動変容を促すための大きなきっかけになるのが、国の制度なんです。いくら自治体が頑張っても限度がある。欧米では国の制度がしっかりしていて、鉄道など公共交通に関して建設費に対する補助制度だけではなく、運行に対する財政支援もしているのです。運営がうまくいっている事業者でも運行費の半分くらいは税金などでまかなってい

る。でもそれをよしとしているわけです。なぜなら、そうしないと益々乗らなくなってしまうからです。

——日本では難しそうですね。

市川 日本の場合、「交通」が企業のビジネス手段になっているのが問題なんです。先日パリに行ってきました。個人使用の電動キックボードは依然認められていましたが、シェアリングサービスは歩道走行など利用者の違反行為が相次ぎ、歩行者との衝突事故も増え、昨年8月末をもって住民投票の結果を受けてパリ市は禁止しました。これに対し、日本の場合は極端に言うとビジネス先行なわけです。これは「交通」に限らないのですが、日本の行政の悪いところで、私有財産だから民間のことは介入できないとすぐに諦めてしまう。欧米では行政側がいかんにして民間の土地所有を地域が目指す方向に沿うように注力する。そう誘導するのが本来の行政によるまちづくりなのです。

——よく思うんですけど、自転車レーンがあっても、途中で消えてしまったりしています。

市川 そうそう。そこが対処療法的なところなんです。本当にやるのだったら徹底的にやってくると、市民も「ああ、行政は違ってきたな」と理解するようになるんですけどね。「住みやすい環境が大切」と叫んでも、中途半端な環境対策になっているのが日本の行政の現状です。そういう意味で、電動キックボードのシェアリングサービスを廃止したパリ市長のアンヌ・イダルゴさんなんてすごいんですよ、本当に。フランス中央政府の交通担当大臣から、そこまでやる必要があるのかと言われても、廃止してしまう。賛否は別としてその行動力が評価されていますよね。行政の取

り組みが中途半端だと何のためにやっているのかわからなくなるでしよ。

——まったく。

市川 本当は多摩地域などもある時期までは、トラム(路面電車)など新たな公共交通システムを導入できるポテンシャルの高い地域として注目されていたんですよ。でも当時の都知事の考え方だったり、国の制度が不十分だったり、新たに整備された広い道路は車に占領されてトラムが走ることはなくなりました。「まちの公共空間を歩行者に取り戻す」と意気込むイダルゴさんなんて、こう言うわけですよ。「街の空気をきれいにするために車道をできるだけ削減するんだ」と。代わりにより健康的な移動手段として自転車を推奨しますと。基本的な考え方や思想があった上でのまちづくりです。「道路空間利用の再配分」という革新的な交通政策を推進するフランスに影響されて、イタリアなど他のヨーロッパの国々も国を挙げたトラムの再整備など新たな取り組みが増えてきている。そういう利用者本位の交通サービスが世界では広がっていますよ、ということ

——ご本は、鉄道やトラムなど公共交通だけでなく、EV(電気自動車)や自動運転など交通に関して幅広く言及され、街なかの歩道など道路環境に関しては自転車に加え電動キックボードなど新たな移動手段が登場し、現在は明治初期の「乗り物バブル」と類似した時代になっているとも書かれています。これからの都市交通に求められることを端的に語っていただくといいでしょうか。

市川 国など公共がもっと関与すべきという意味で、「STOP交通崩壊」であり、「STOP交通カオス」でしようか。

——ご本は、鉄道やトラムなど公共交通だけでなく、EV(電気自動車)や自動運転など交通に関して幅広く言及され、街なかの歩道など道路環境に関しては自転車に加え電動キックボードなど新たな移動手段が登場し、現在は明治初期の「乗り物バブル」と類似した時代になっているとも書かれています。これからの都市交通に求められることを端的に語っていただくといいでしょうか。

市川嘉一氏

1960年埼玉県川越市出身。都市・交通ジャーナリスト。一般社団法人立飛総合研究所理事。早稲田大学卒業後、日本経済新聞社入社。大学在学中から経済・社会思想、社会哲学に触れ、現在も交通について論ずる根底には、「政府とは何か」「国とは何か」といった思想的問題意識が流れている。ジャーナリストか研究者になりたくて新聞社に入り、「日経グローバル」主任研究員などを経て、2018年に退社。2018年8月から現職。社会人になってから埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程を修了、博士号(学術)を取得した。



ネットでも公開しています





ネットでも公開しています

初夏の立川 ♪ワンワンワン♪

ペットも家族の時代です

「こんなところ、他にはないから」の声。
そう、立川は犬にも優しい街なのです。
週末ともなれば、ワンちゃんと一緒にランチしたりお買い物したり。
そんなある日を撮影してみました。



犬種のはっきりしているワンちゃんばかりではありません。
もちろん中には保護犬も。
愛情のかけ方はさまざまですが、
ここに集うワンちゃんはみんな幸せそうでした。
(サンサンロード、GREEN SPRINGS、国営昭和記念公園で)

<h3>えくてびあんの輪</h3> <p>えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 羽衣町・錦町・柴崎町・立川市外のお店です。</p>	
羽衣町	BB TAKAOKA 521-0236 お好み焼&もんじゃ焼 こけし 526-1267 立川熟成寝かせ蕎麦たかや 595-6922
錦町	鳥料理 くし秀 522-7692 寿司勝 522-4874 イタリア料理 トラットリア シェ 512-8735 中国料理 五番 522-7472 一六珈琲店 527-1680 手づくりみそ 材料専門店 北島こ3店 524-3190 new gyoza 1059 餃子天国 526-2283 バー パル アラディ 523-3917 康復中国気功整体院 529-1088 日本クッキングスクール 522-3440 元祖5本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616 ホテル日航立川 東京 521-1111 FALCO hair 528-2389 N HAIR WORLD 523-5336 創作料理 caffe & bar 厨~kuriya~ 595-7449 立川駅泌尿器科皮膚科クリニック 548-8802 TTM(株) 524-5787 クラウンペーカーリー立川店 526-2226 三田花店本店 524-4187 いわさき痛みの整骨院 529-5123 にしや薬局 525-9212 たましん RISURU ホール 526-1311 多摩信用金庫 錦町支店 528-0511 パン工房 グラティア 512-8667 そば処 高尾亭 522-2710 Natural Food Restaurant シェいなほ 529-5921 至誠学舎立川 527-7734 至誠ホーム 527-0031 至誠介護相談センター 527-0321
柴崎町	諏訪神社 522-2968 バスタビーノ はしや 521-3386 高島ビル 526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店 527-0197 ビジネスホテル 小沢屋 523-0388 (株) 一心堂 527-3777 すがの歯科 540-2675 あすなろクリニック 529-2756 入船茶屋 524-6266 串揚割烹 トントン 524-4521 不動産 コマツホーム 525-5811 かみゆい処 わ 522-8202 ホテル ほまれ 523-0588 ヘアサロン オオスキ 528-0809 中国四川料理 山城 512-8356 酒歩 たから 528-1510 リサイクル着物 着楽堂 523-9702 天婦羅・うなぎ 良銀 522-6702 ギャラリー きらら 522-3913 生活雑貨 EAST END 523-9636 特むし銘茶・海苔 菊川園 526-2035 ジョイフルプラザ 529-2772 めん心 堤屋 525-6602
立川市外	昭島市 ECO'S 昭島店 546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜 561-7233 国分寺市 パンの店 fermata 534-3334

街の話題

掲載しきれなかった写真などはQRコードからどうぞ



あけぼの夏まつり

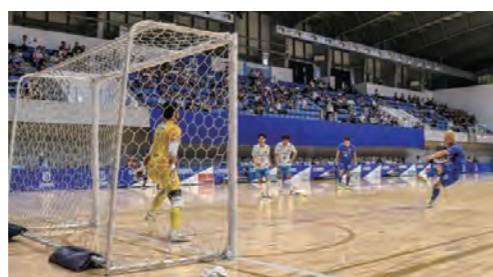
夏はお祭り、盆踊り！曙町が一丸となって皆さまと共に楽しむ「あけぼの夏まつり」が8月3日(土)と4日(日)、賑やかに開催されます。場所は、今や立川の中心となったサンサンロード。時間は14時から20時まで。曙町11町会と関係団体が協力しての開催。昔懐かしい売店も出店します。自衛隊や立川警察署、立川消防署のテントもあって、防犯・防災のキャンペーンも同時開催。ステージでは賑やかに太鼓やダンス。納涼盆踊りも実施、サンサンロードには子ども神輿と山車が渡御します。立川駅前のタクロスステージでも曙子ども囃子が。夏らしい風情と日本情緒を味わいにいらしてください。



写真(二点共)は過去の祭りの様子から

開幕からの連勝でリーグ首位！

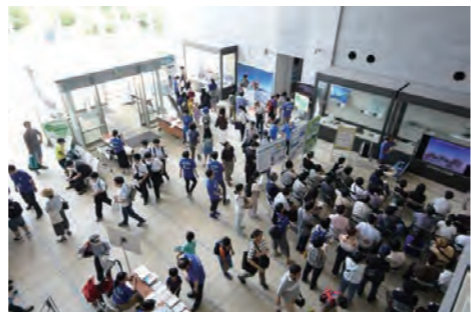
6月29日、アリーナ立川立飛で立川アスレティックFCのホームゲーム第3戦が行われました。なんと、今季開幕より負け無しの立川アスレ。得失点差でも他チームを抜いて現在首位(7月6日、フウガドールすみだに負けて7月9日現在2位です)。強いんですよ。試合はハラハラドキドキですが、観ていてとても楽しい。7月、10月とホームゲームがありますから是非、会場へ足を運んで応援してください。



ボールが見えますか？

極地研の一般公開

9月28日(土) 10:00~16:00、緑町の国立極地研究所で一般公開「極地研探検2024」が開催されます。見逃しちゃうともったいない。申込不要、参加無料なのにハイレベル。過去にはこの一般公開に参加したことで学習意欲が向上し、希望以上の学校に進学したというお子さんもいました。見る、聴く、触るの体験へ！中には事前申込が必要なコーナーもあります。詳細は8月9日から公開される極地研の特設サイトをご覧ください。



過去の一般公開から

50周年の立川市民合唱祭

立川市合唱連盟は、創立50周年を記念して本年10月13日(日)、たましんRISURUホール大ホールで「立川市民合唱祭」を開催します。合唱連盟に参加している団体も、参加していない団体も、立川で活動していれば参加できるそうです。皆さん心ひとつに楽しく歌を歌いましょう。歌うことは元気の源！参加申込の締め切りは8月7日(水)。連絡やお問い合わせは、立川市合唱連盟 会長 山本佳世乃さん。お電話番号 090-7217-8307
 メールは kayono@ktb.biglobe.ne.jp です。もちろん合唱祭当日は、えくてびあんもすてきな歌声を聴きに参ります！

参加団体募集

立川市合唱連盟は、1974年から立川市民合唱祭を開催
本年、50周年を迎えます

立川市民合唱祭で
 大ホールの舞台上に
 立ちませんか？
 2024年10月13日(日)

(開催) 12時20分~(演奏)16時
 両日午前中にリハーサルを実施します

★(期) たましんRISURUホール大ホール
 ★(対) 立川市内で活動する合唱
 会場サクル

(出演時間) 9分
 (参加費) 1団体 5,000円
 参加費無料
 一人50円未満

申し込み締め切り
 8月7日(水)
 みなさまのご参加をお待ちしております

立川市合唱連盟
 (連絡/お問い合わせ) 090-7217-8307 e-mail:kayono@ktb.biglobe.ne.jp

2時間で驚きのパフォーマンス

「楽しむ」そして「やってみる」をテーマに、HEART Globalキャストによる歌とダンスのワークショップが6月30日、旧若葉小学校の体育館で行われました。午前午後、50人ずつの子どもたちが休憩なしの2時間動き続けます。最後に簡単なショースタイルで覚えたダンスや手話付きの歌などを披露してくれましたが、たった2時間の結果とは思えない感動的な舞台でした。この日は短時間のワークショップでしたが、9月には世界中からやってくるキャストによる3日間のミュージック・アウトリーチが行われることになっています。9月27日、28日、29日にたましんRISURUホール大ホールで開催。ご興味のある方、また参加してみたい方、詳細はホームページからどうぞ。募集は小学1年生から高校3年生までの220人です。http://heart-global.jp



6人のキャストが自己紹介 子どもたちとキャストの初対面 最後はキャストと子どもたちが1つになって踊ります

06.29土
 10:00-16:00
 in ドーム立川立飛

Tachikawa Global Festa

外国人と日本人の文化交流の場
 外国人と日本人の文化交流の場
 外国人と日本人の文化交流の場

他の写真は
 えくてびあんnoteをご覧ください

6月29日ドーム立川立飛で、立川青年会議所による「Tachikawa Global Festa」が開催されました。主旨に賛同して協賛くださる企業や団体も多く、たちかわ多文化共生センターや、立川国際友好協会などの協力を得て、言葉がわからなくてもお互いが寄り添えるまちづくりをテーマに様々なことに挑戦。運動交流ブースや体験ブース、外国人サポートブースなどを作って、誰もが楽しめる賑やかな会場でした。立川市によれば、令和5年度の立川市における外国人住民数は2866世帯、5124人となっています。お互いを知り、理解し合うことは大切ですね。



えくてびあんスタッフ一同

オクトーバーフェストみたい？

6月29日、暑かったんです、この日。言葉を換えると「ビール日和」。立飛駅近くで『クラフトビールフェスティバルin立川立飛』が開催されました。この場所、時々予告なしに面白いことをやるんです。いきなり地面にたくさんの電気炬燵を置いてしまったり、鉄道模型を走らせたり。29日当日はクラフトビールを手がける10社が登場。地元立飛ビールからは、ブルーベリーサワーとオレンジラガーが提供されました。気温も高く、ビールはととても美味しかったそうで、夜まで賑わっていました。



表紙

映画館の涼(シネマツウ)

8月号の表紙写真を選ぶのに、お祭りをイメージするピンクの提灯にするか、それともこの写真にするか、迷いました。どの街もそうかもかもしれませんが、立川は殊に新旧、あるいは今昔の差が激しい。どちらも立川で、どちらも「立川らしい」のです。「涼」にも様々な「涼」があって、根川のせせらぎに見いだす「涼」もあれば、昨年8月号の表紙でご紹介した富士見緑地の小さい滝の「涼」もあります。新しい立川からはGREEN SPRINGSのピオトープ。噴水もいいかもしれません。ここにご紹介したシネマツウの一角は、日照りのサンサンロードを冷房の中から見下ろす「涼」で、こうして切り取ってみると、実にスタイリッシュな立川の一面。えくてびあんお気に入りの場所の1つです。

かたこと

◆7月3日から新紙幣が登場しました。偽造防止対策強化のためにデザインを変えたそうです。キャッシュレスの時代なのに...と思われるかもしれませんが、これが最後の紙幣になるという説も浮上しています。ご祝儀袋とか水引とか、紙幣が消えたとしても残って欲しい日本文化の1つです

◆7月号の裏表紙。中央線101系と書きましたが、読者からご指摘あり、201系の間違いでした。わかる人にはすぐわかるそうです。恐れ入りました◆中ページでご紹介しましたが、土日の緑町界限は、ワンちゃんいっぱい。ソラノホテルにはベッド同伴で宿泊できる部屋もありますし、ペット連れでお食事できるお店も増えました。ワンちゃん写真ばかり入れましたが、実はネコちゃんもお散歩しているのだから。残念、1カット、ネコちゃんも入れておきたかった◆しつけの良いペットの一方で、マナーの悪い自転車やキックボード。歩道は誰の為にあるのかなと思う事しばしば。まさに「交通崩壊」◆最近テレビが面白くないと言ったら、「こんなYouTubeチャンネルが面白いですよ」と若い人。某書店チェーンの動画チャンネルですが、これが本当に面白い。どうして面白いのかなと何本も観てみた結果、キャラクターの声を当てている人が機知に富んでいる。さらに、巻き込みがうまい。もちろん台本もうまいのようですが、うへん、やっぱり最後は人か。そんな思いに至りました。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん

8月号 第41巻 通巻473号

令和6年8月1日発行
 発行 有限会社えくてびあん
 〒190-0023
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
 E-mail message@tamatebakonet.jp
 URL https://www.tamatebakonet.jp
 発行人 黒須 環
 企画・編集 えくてびあん編集スタッフ
 写真 五来孝平
 デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
 印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

再開発の途上です



えくてびあんの写真から

さて、ここはどこでしょう。そうです。開発中の立川南口駅前。1996年8月号のえくてびあんに「再開発の中の緑」と題して掲載した写真です。写真奥にルミネが見えています。つまりそこが立川駅です。写真左手を見ると、見慣れた建物が並んでいます。ベージュの5階建てのビル、2階の窓になんとか赤いマークが見えています。立川通ならすぐわかる、長年こちらで営業していた「ホットナンバン」、ちゃんぽんのお店でした。常連さんでいつも混んでいて、おじさんとおばさんが黙々と働いていました。2階にも客席があって、ちゃんぽんを両手におばさんが階段を昇ったり下りたり。それにしても緑がこんもり。28年前の柴崎町2丁目でした。関連の写真が何枚かあります。ご覧になりたい方はえくてびあんnoteへどうぞ。

